



署名推進、世界大会成功めざす 埼玉県原水協 FAX ニュース

〒330-0063 さいたま市浦和区高砂 3-10-11 第一木村ビル 301

TEL. 048-863-5384 FAX. 048-863-5426

E メールアドレス info@gensuibaku-saitama.org

2015.7.26

No.31

第 30 回埼玉県原爆死没者慰霊式 400 名、 被爆 70 周年のつどい 400 名が参加 7/26



右からしらさぎ会の堀田シヅエ元会長、
肥田舜太郎名誉会長、田中熙巳現会長
「原爆と人間」パネルを見学する参加者



7月26日埼玉会館小ホールで、被爆70周年第30回埼玉県原爆死没者慰霊式（午前）と被爆70周年のつどいが開催されました。

慰霊式では、はじめて亡くなられた埼玉県内被爆者1301柱の「死没者名簿」が奉納されました。埼玉県原爆被害者協議会（しらさぎ会）の田中熙巳会長は慰霊のことばで「被爆者はふたたび同じ苦しみを地球上の誰にも味あわせてきならない、すみやかに地球上から1発残らず廃絶しようと叫びつづけてきました。しかし、今日なお1万7千発近くの核弾頭が地球上に存在します。核兵器を保有する国とその同盟国は、国の安全を保つために、核兵器による抑止力が必要だと主張します。核兵器の使用を前提とする核抑止力論は人道上も許せないことで、絶対に認めるわけにはいきません」と訴えました。

来賓として、日本共産党の梅村さえこ衆院議員などがあいさつ。公明党の矢倉参院議員は、まるで「戦争法案」に反対であるかのようなあいさつをしました。世論調査では創価学会の会員も過半数が戦争法制に反対しています。参議院で衆議院のような強行採決はとうていできないことは明らかです。

午後の「核兵器廃絶のためのシンポジウム 核兵器とは共存できない」では、しらさぎ会の現・元会長3氏による鼎談。田中会長は「核兵器がなくなっても被爆の実相は伝えつづけなければならない。なぜなら、人類は核兵器をつくることを知っているから」と訴えました。堀田元会長は、「以前は遠くの学校にまで呼ばれて語り部を行っていたが、今はまったくくない」と述べ、被爆の実相を次の世代に伝える努力を訴えました。肥田名誉会長は、放射線に負けない生き方—そのためには早寝早起きなど、自分の人生の主人公は自分だと自覚した生き方をしよう」と呼びかけました。

アニメ映画「ナガサキ 1945 アンゼラスノ鐘」上映後は、多くの参加者が「原爆と人間」写真パネルに見入っていました。